

香川高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	英語Ⅱ A	
科目基礎情報							
科目番号	190010			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	建設環境工学科 (2018年度以前入学者)			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	3		
教科書/教材	総合英語 FACTBOOK これからの英文法、教員作成ハンドアウト						
担当教員	徳永 慎太郎						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	英文法の基本構造を理解し、演習問題を経て基本的知識を体得できる。			英文法の基本構造を理解し、演習問題を経て基本的知識を体得できる。		英文法の基本構造を理解し、演習問題を経て基本的知識を体得できていない。	
評価項目2	習得した英文法知識を使用して基本的な (科学) 英文を読解できる。			習得した英文法知識を使用して基本的な (科学) 英文をある程度読解できる。		習得した英文法知識を使用して基本的な (科学) 英文をある程度読解できていない。	
評価項目3	TOEIC-Bridgeレベル程度の英文のリスニングが理解できる。			TOEIC-Bridgeレベル程度の英文のリスニングがおよそ理解できる。		TOEIC-Bridgeレベル程度の英文のリスニングがおよそ理解できていない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	英語でのコミュニケーションに必要な基本的な文法力及びリスニング能力の定着を目指す。特に英文法を体系的・集中的に学ぶ。						
授業の進め方・方法	* 総合参考書や自作プリント・映像を使用し、英作文力の強化を図る。* 自作プリントを使用し、文法力・リスニング力の強化を図る。* 予習を確実にし、確認をする。* 教員によるなるべく文法用語を使用しない文法解説を受け、演習問題を行う。* リスニング演習も一部行う。						
注意点	予習を行う事は絶対条件とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	文の種類、成り立ち		・ 英文の文型構造を理解できる。 ・ さまざまな時制を理解し、動詞、完了形、助動詞、態を使うことができる。		
		2週	文の種類、成り立ち		・ 英文の文型構造を理解できる。 ・ さまざまな時制を理解し、動詞、完了形、助動詞、態を使うことができる。		
		3週	動詞、文型、時制		・ 英文の文型構造を理解できる。 ・ さまざまな時制を理解し、動詞、完了形、助動詞、態を使うことができる。		
		4週	動詞、文型、時制		・ 英文の文型構造を理解できる。 ・ さまざまな時制を理解し、動詞、完了形、助動詞、態を使うことができる。		
		5週	助動詞、態		・ 英文の文型構造を理解できる。 ・ さまざまな時制を理解し、動詞、完了形、助動詞、態を使うことができる。		
		6週	助動詞、態		・ 英文の文型構造を理解できる。 ・ さまざまな時制を理解し、動詞、完了形、助動詞、態を使うことができる。		
		7週	助動詞、態		・ 英文の文型構造を理解できる。 ・ さまざまな時制を理解し、動詞、完了形、助動詞、態を使うことができる。		
		8週	前期中間試験		試験で達成度を確認する。		
	2ndQ	9週	5 文型・分詞・動名詞		・ 身の回りで使われる簡単な英語表現を聞き、話せる。 ・ 形、位置関係等に関する英語表現を聞き、理解できる。 ・ 科学英語に関する英文を読解できる。		
		10週	不定詞・動名詞		比較・仮定法・関係詞・不定詞、動名詞、分詞の用法が理解できる。		
		11週	5 文型・分詞・動名詞		比較・仮定法・関係詞・不定詞、動名詞、分詞の用法が理解できる。		
		12週	分詞・比較		比較・仮定法・関係詞・不定詞、動名詞、分詞の用法が理解できる。		
		13週	分詞・比較		比較・仮定法・関係詞・不定詞、動名詞、分詞の用法が理解できる。		
		14週	関係詞・仮定法		比較・仮定法・関係詞・不定詞、動名詞、分詞の用法が理解できる。		
		15週	関係詞・仮定法		・ 相手の話す英語の趣旨が70%ほど理解できる。 ・ 道案内や電話などでの英語表現を聞き、基礎的対応ができる。 ・ 科学英語に関する英文を読解できる。(D-2)		
		16週	前期末試験		試験で達成度を確認する。		
後期	3rdQ	1週	疑問詞 否定		否定・強調、倒置、疑問文、否定形、比較級、最上級とそれを用いた慣用表現が理解できる。		
		2週	疑問詞 否定		否定・強調、倒置、疑問文、否定形、比較級、最上級とそれを用いた慣用表現が理解できる。		

		3週	話法 名詞構文	否定・強調、倒置、疑問文、否定形、比較級、最上級とそれを用いた慣用表現が理解できる。
		4週	話法 名詞構文	否定・強調、倒置、疑問文、否定形、比較級、最上級とそれを用いた慣用表現が理解できる。
		5週	倒置 名詞	否定・強調、倒置、疑問文、否定形、比較級、最上級とそれを用いた慣用表現が理解できる。
		6週	倒置 名詞	否定・強調、倒置、疑問文、否定形、比較級、最上級とそれを用いた慣用表現が理解できる。
		7週	強調	・買い物や天候に関する会話などが理解でき、基礎対応ができる。・数の大小、値段等に関する英語表現を聞き理解できる。・科学英語に関する英文を読解できる。(D-2)
		8週	後期中間試験	試験で達成度を確認する。
	4thQ	9週	冠詞 代名詞	前置詞、接続詞、形容詞、副詞、冠詞、代名詞の使い方が理解できる。
		10週	冠詞 代名詞	前置詞、接続詞、形容詞、副詞、冠詞、代名詞の使い方が理解できる。
		11週	形容詞 副詞	前置詞、接続詞、形容詞、副詞、冠詞、代名詞の使い方が理解できる。
		12週	形容詞 副詞	前置詞、接続詞、形容詞、副詞、冠詞、代名詞の使い方が理解できる。
		13週	前置詞 接続詞	前置詞、接続詞、形容詞、副詞、冠詞、代名詞の使い方が理解できる。
		14週	前置詞 接続詞	身の回りで使われる簡単な英語表現を聞き、話せる。・簡単な講義の一部やスピーチなどの英語表現を聞き理解できる。・科学英語に関する英文を読解できる。(D-2)
		15週	tipping	身の回りで使われる簡単な英語表現を聞き、話せる。・簡単な講義の一部やスピーチなどの英語表現を聞き理解できる。・科学英語に関する英文を読解できる。(D-2)
		16週	後期末試験	試験で達成度を確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	2
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	2
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	2
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	2
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	2
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	2
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	2
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	2

			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	2	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	2	
評価割合					
	試験	予習	小テスト、提出物、発言	合計	
総合評価割合	75	15	10	100	
基礎的能力	75	15	10	100	
専門的能力	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	